

1 自己評価及び外部評価結果

事業所番号	0691500060		
法人名	社会福祉法人長井弘徳会		
事業所名	グループホームリバーヒル長井館町		
所在地	山形県長井市館町南9-72-10		
自己評価作成日	令和 6 年 1 月 5 日	開設年月日	平成26 年 6 月 2 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 6年 2月 5日	評価結果決定日	令和 6年 3月 1日

(ユニット名 かたくり)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

活気ある商業施設の近隣に当事業所があります。新型コロナウイルス5類移行後も感染対策もあり、以前のように活発な地域交流や参加はできていない状況にはありますが、運営推進会議での地域代表の方を交えた避難訓練や職員が地域の神社の草むしりなどへの協力をしながら、今できる地域との繋がりを行ってきました。ホーム内ではご利用者に季節感を味わっていただくため、色々な行事の催しや手工芸での作品づくり等を行っています。またホームの畑には花や野菜をご利用者と一緒に植え収穫しそれを調理したりしています。介護計画作成の際は全員で気持ちシートを記入することでご本人様の思い添ったケアができるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣にスーパーなどの大型店が点在し、その近くに当事業所と法人の特別養護老人ホームやデイサービス・介護予防センターなどが並び、ケアタウンとして機能しています。コロナ禍が5類に移行したことで緩和の兆しが見え、面会や外出も出来るようになって地域の防災訓練に代表者が参加したり、資源回収や神社境内の清掃などで地域との繋がりも少しずつ回復し、運営推進会議を開催して現状を発信することで相乗効果も生まれています。利用者にも役割分担があって調理の下ごしらえや洗濯物などを手伝い、職員は好きなことや得意なことを把握して上手に一日の生活の中に組み込んでいます。創作活動などと軽い運動で体力を維持してもらい、利用者の出来ること・出来たことを互いに喜びその人らしさを大切にして支援している事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット毎に理念の掲示を行い、スタッフ会議で自分たちが目指すケアとして読み合わせを行っている。スタッフ会議やケース検討会の際に理念に添ったケアができていないか確認を行っている。		
2		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍であったために行事の中止などもあり、ご利用者の積極的な地域行事への参加はできなかったが、火災訓練の際に運営推進員の地域の方の参加や職員が廃品回収の協力、地域の神社の草むしりなどに参加し地域との繋がりと継続している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通してホームの運営状況やご利用者の日々の生活の様子、職員のケアの様子や関わり方などを発信している。		
4		○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回 年6回の運営推進委員会を開催し、ホームの運営状況、ご利用者の様子をスライドや書面を通して報告し、推進委員からは地域の活動の様子や情報を伺うとともに、ホームへの助言や意見もらいながらサービス向上へ活かしている。		
5		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議への参加協力をもらい、市の情報を得るとともに、疑問点や相談事等が生じた場合は市に連絡、相談し助言を得ている。また市の介護サービス相談員の訪問活動も積極的に受け入れることでご利用者の状況やホームの様子を知ってもらう機会となっている。		
6	(1)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	身体拘束等の適正化の指針の掲示とともに、どのような行為が身体拘束にあたるのかを掲示し職員への周知を図っている。また法人での研修の参加、ホーム内での研修をすることで身体拘束をしないケアについて学びを深めている。3ヶ月に1回身体拘束適正化委員会を実施し、身体拘束にあたるケアがないかなど日頃のケアの振り返りを行っている。	身体拘束等の適正化の指針を基に適正化委員会の開催と研修の実施や内容の周知などが適正に行われている。職員はスタッフ会議で話し合ったり委員会の議事録を回覧して身体拘束に当たる行為について認識し、利用者の安全を確保しながら自由な暮らしを支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内で虐待防止委員会を年2回実施し日頃のケアを振り返りをするともに、法人の研修の参加やスタッフ会議の中でケアで困っている点などはケース検討や勉強会を行い、虐待防止に努めている。	虐待防止に関する事項として虐待防止委員会を定期的に開催し、職員全員が参加して透明化を図っている。研修を通して周知を徹底し、居住環境にも配慮しながら利用者の主体性を尊重して抑圧感を与えないようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常自立支援事業や成年後見制度を利用しているご利用者は現在いないが、職員へは制度について知ることができるよう資料の回覧を実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居が決定した際は事前に契約書と重要事項説明書をご家族に渡し、内容を確認頂いた上で入居当日に説明を行い、不明な点や疑問点などをご家族に確認しながら署名、捺印を頂いている。		
10	(3)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議でご家族代表の方より、意見や要望、質問などを頂く機会を設けている。また3年に1回家族向けにアンケートを実施し、結果を踏まえて検討し運営に反映させている。受診時や面会時などご家族との会話の中からもご意見や要望など伺うことができるよう努めている。	職員は日々の生活の中で利用者が意見や要望を言い易いように雰囲気づくりを行っている。家族等には面会や電話などで伺い、利用者の食に関する意見や感謝の言葉も多く、常に聴く努力と場面づくりを心掛けてサービスの質向上に繋げている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議にて管理運営会議での法人、事業所の決定事項の報告、管理運営会議へホームの状況報告し運営に反映するようにしている。法人への意見、要望については、親睦委員会が取りまとめを行い法人への意見として提案を行っている。		
12	(4)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回職員個々が自己評価表を作成し、役席者と面談を実施。その期間でできたことや課題となった事など振り返りを行い、課題となった部分についてはどのような目標を持ち取り組んでいくかを一緒に考え各自が向上出来るような環境作りを行っている。	代表者は職員の勤務状況と実績などを把握し、処遇面については就業規則や給与規程など法人の諸規定に準じて職場環境と条件整備を図っている。職員に資格取得を奨励し意欲と向上心を持って働けるようにしている。	
13	(5)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は、各事業所の研修係が中心となり、研修の案内や研修日誌の管理等を実施している。感染予防の為、ZOOMにて各事業所の代表1、2名が参加し、スタッフ会議を利用して伝達研修や資料の回覧を行い内容を共有している。	代表者は職員育成の重要性を認識し、経験や習熟度に応じて学ぶ機会を与えて質の確保と向上に向けて取り組んでいる。職員も実践者研修やそのほかの研修等を通して知識や技術を習得し、利用者が安心して暮らせるようサービスの質向上に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナの影響もあり他事業所と交流する機会はなかったが、同法人のグループホームと連携を取り、情報交換や意見交換を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望を受け自宅や施設を訪問し、ご本人の困っている事や要望等を傾聴し思いを汲み取れるよう努めている。又、不安や心配事が軽減できるようご家族にセンター方式のシートを記入して頂き、ご本人の希望や不安を事前に把握し、入居する際には安心して入居できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が不安に思っている事や困っている事に耳を傾け、安心して相談して頂けるように努めている。又、ご家族との話し合いの中で今後の方向性について一緒に考えながら要望等も組み入れ、より良い関係を築いていけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族との話し合いの中で、今ご本人が必要としている支援は何かを考え、穏やかに過ぎて頂けるような方向を見極める努力をしている。入居に対しての思いを伺いながら少しでも環境に馴染めるような対応に努めている。		
18	(6)	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念である「できた喜びをお互いを感じ笑い声あふれる我が家」を念頭に職員一人ひとりがご利用者個々とのよりよい関係を築けるよう努めている。個々の状況を把握し環境を整えながら、その人にとっての笑いや和み、望みある日々とは何かを考えつつ、共に寄り添いながら信頼関係を築けるように努めている。	その人の出来ること・出来たこと・まだ出来ることを大切に一人ひとりの思いや意向を尊重し、望みを持って暮らせるように支援している。日々の生活のなかで得意とすることを把握し、共有しながら過剰な介護にならないように注意している。	
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話や季刊誌等を活用し、ホームでの様子を報告している。コロナウイルス感染症の対策緩和により制限はありながらも対面での面会を実施することが出来ている。日頃からご家族と一緒にご本人の立場になってより穏やかな生活が送れるよう考え、理解を深めるようにしている。又、変化があれば都度電話での報告を行い信頼関係の構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(7)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルスの対策緩和により制限はありながらもご家族とゆっくと水入らずで過ごす面会ができた。ご本人の年祝いでご家族との食事会に外出されたりと、ご本人にとって大切な方々との和やかな時間を作ることが出来ている。又、遠方のご家族とはオンライン面会や電話で繋がりを図られていた。季節ごとに長井市内のドライブ、ホーム周辺の散策など、制限のある中でも工夫をし馴染みの関係が途切れないよう努めている。	コロナ禍が5類に移行したことで家族や親戚・友人も訪ねてくるようになり、馴染みの関係を大切にしている。これまで培ってきた社会との関わりや周りの人との関係を把握して継続出来るように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の個性を活かしながら円滑な関係が築けるよう、又、より良い関係性が築けるように心がけている。食席の配慮をすることでお茶会やレクリエーション等を通してお互いのことを理解し認め合う関係性ができ、同席者同士で会話が弾んだり手工芸と一緒に楽しむなど、積極的に輪ができています。ご利用者の間に職員も入り会話の橋渡しを行い、お互いが関わりやすい雰囲気作りを努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	コロナ禍になってからは入院された際はご本人の状態をご家族に電話や来所時に確認している。又、退去されても不安やわからない事があればいつでも相談できる体制を整え、ご家族に何かあれば連絡してほしい旨をお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人、ご家族の意向や思いを実現できるように日々の言動や行動を記録に残し、日頃から職員間で情報の共有や相談をし介護にあたっている。又、ユニット職員にセンター方式を活用記入してもらい新たな気づきがありご本人様の思いや意向の把握に努め介護を実践している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅生活中のケアマネージャーに伺ったり、ご家族様にセンター方式の記入を依頼し、これまでの生活歴や馴染みの暮らし方などの状況把握に努めている。わからない事があればご家族へ確認し適切なケアが行えるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日のご利用者の体調や生活リズムに合わせながらレク活動や作業を提供し残存能力等の現状把握に努めている。個々の一日の過ごし方や生活リズムを把握しちょっとした変化でも素早く気付くことが出来るよう記録に残したり、継続して観察ができるように申し送りや伝達用紙を使用し職員間で把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(8)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	センター方式の姿シートを活用しユニット職員全員からの情報を集め、ご本人が望んでいる事苦しい事など思いを汲み取り、又、ご家族の思いも伺い、課題や希望を反映しケアプラン作成を行っている。3ヶ月毎にモニタリングを行い現状に即した介護計画を作成している。必要時は医療連携看護師や専門職にもアドバイスを頂いている。	本人と家族等の思いや意向を把握し、その人らしく暮らし続けるために必要な支援を盛り込んで介護計画を作成している。自分で出来ることを大事にして個性を保ち、健康を維持して穏やかに過ごしてもらえるように利用者主体に作成している。	
27	(9)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの実施状況や言葉・表情・心身の変化など毎日記録し、職員間で情報共有に努め、気づいた事があれば実践や見直しに活かしている。3カ月毎にモニタリングを行い、実施状況の確認と見直しをしている。ケアの中で気づいた点などは伝達用紙に記録し職員間で情報を共有しながら実践や見直しに活かしている。	日々の生活の様子や気づきを申し送り簿とパソコンに記録して共有している。介護計画に沿って適切に実践されているか、気づきや新たな課題について評価を行い、家族等の要望も含めて本人本位に検討して介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の際ご家族様が送迎できない時は職員がホームの車で送迎を代行している。又、法人内の歯科衛生士にご利用者の口腔内を診て頂き「健康は口腔内から」を意識して頂く機会を設けている。ご利用者の求めることに行き届く柔軟なサービスの提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染症が5類に移行した事で今後は状況を踏まえて地域行事へ参加していきたい。ご利用者が雑巾縫いを継続して行っているため、運営推進委員の方に働きかけを行い地域への雑巾寄付を再開できるよう準備している。		
30		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の定期的な受診を行っている。日頃の様子や心身の状態の変化などを「受診時連絡表」に記載し、主治医へ情報を提供し主治医からの指示を頂いている。ご家族様の付き添いが困難な場合や書面ではうまく伝えることが出来ない時など、ご家族様へ説明した上で職員が同行し直接主治医へお伝えしたり、適切な看護が受けられるように努めている。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師を法人内看護師に依頼し週1回訪問し健康管理に努めている。いつでも連絡が取れるように医療連携看護師が公休の際は待機看護師が対応する体制を取っている為、状態の変化時には速やかに連絡を取り助言や適切な対応ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	(10)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、必要な情報を医療機関へ提供し、ご家族へ説明し了解のもと主治医、ご家族と職員とで現在の状況を確認する場を設けている。又、ご家族からの連絡で情報を得ている。退去時には必要な情報収集を行い、ご本人様・ご家族様が安心してできるように居室環境を見直し整えている。電話などで医療機関との連携も密にとっている。	入院する場合には医療機関に対して本人への支援方法などの情報を提供し、利用者の不安が少しでも解消できるようにしている。治療を終えて再び入居する場合には今後の支援について、医師から身体情報や食事の方法なども含めて指示を仰ぎ、家族等とも協働して支援に繋がるよう取り組んでいる。	
33	(11)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に「重度化した場合の対応に係る指針」についての説明と同意を得ている。医療連携看護師の配置により看護ケアの体制を整えている。看取りに関するマニュアルの確認と研修会を行い、終末期の在り方をチームとして考え対応できるようにしていく。	入居時に利用者や家族等へ重要事項の説明時に合わせて、重度化した場合の対応に係る指針や看取り指針についても説明している。年1回看取り研修を行っており、看取りが必要になった場合には更に介護技術や利用者寄りそった支援方法などを確認し、不安のない介護が出来るようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎月第4週に訓練週間を設けて実施している。マニュアルに基づいて訓練を行い、実践力・対応力の向上に努めている。又、マニュアルは直ぐに確認できる場所に明示している。訓練週間はできるだけ参加し、参加できなかった職員にも資料や反省などを確認してもらい、職員間で周知し対応できるように取り組んでいる。		
35	(12)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防署の指導のもと、訓練を実施している。その際には、推進委員会の方にも参加して頂き行っている。避難する際の危険個所がないかなど把握したり、共有している。事業所独自でも、毎月訓練を行いマニュアルの確認や見直しを行っている。	防火管理者は防火設備等や避難路の点検・防災訓練等を行い、災害から利用者・職員の安全確保に努めている。水害時に利用者が避難する際には、法人の用意する車両で浸水区域外にある同法人のデイサービスセンターへの移送体制を整えており、食料・飲料水なども備蓄して災害に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(13)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に「人生の先輩であること・個人の人權を尊重することを意識しながら声かけや関わりを持って対応している。ご利用者の気持ちに寄り添ったケアを心がけている。不適切な対応がないよう、日頃から職員間で意識付けをし合ったり、スタッフ会議の際にの尊厳やプライドに配慮した関わりができていないかなどを話し合い確認し、ケアに努めている。	利用者の会話の中から思いや意向を聴き出し、表出できない方は表情などから理解して職員共有し、人格を尊重した対応を行っている。利用者が生活の中で朝昼晩の食事などで遅れる場合にも、急かさずに誇りやプライバシーを損ねない声掛けで気を付けながら支援をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お一人おひとりの個性を尊重し、希望や思いを汲み取れるように環境や状況を工夫しながら、自己決定できるように配慮している。いつもと違った様子の際は個別に関わりを持ち思いを確認している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38	(14)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人の気持ちや体調、その日その日の希望に合わせてながらその人らしく過ごして頂けるよう、無理なお誘いをすることなく、自室やフロアで過ごして頂いている。入浴やリネン交換の際は、前もって声がけをし気分が乗らない時は時間や翌日にずらしたり、ご本人のペースで過ごして頂けるように環境に配慮しながら関わっている。	入居前に経歴・生活状況や身体状態なども聴取して記録し、また入居後の日常生活を通して気づいたことをシートに記入し共有を図って、利用者が過ごしやすいようにしている。日課はあるが無理強いすることなく、それぞれの体調に注意しながら意向に合わせて、見守りや寄り添った支援をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面台の横にご本人の洗面用具を準備し、毎日個人の可能な範囲で整容されている。洗顔が上手に行えない方にはホットタオルをお出ししている。また、可能な方には入浴前に職員と一緒に着替えを準備したり、ご本人の好みの服を選んでいただいている。入浴後にはご本人に髪をとかしたり、化粧水や乳液を使用したい方には行えるように準備している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の旬の物や郷土料理など献立に入れ、色々な食材を使用し栄養価の他にも見た目でも食欲をそそるように工夫している。また、ご本人の嚥下状態にも配慮しながら食事形態や摂取量なども検討している。ご利用者と一緒にご準備や盛り付け、食器拭き等を行い、必ず謝意を伝えている。	日々の会話から食べたい物を聞いて献立に取り入れている。食事前には口腔体操やメニューの説明を行って、飲み込み易さや食欲に繋げている。また食事やおやつの前には手洗いを行って感染症の予防を図り、安全安心を確保しながら食材の下ごしらえなど軽い手作業に関わることが出来るように支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人おひとりの状態や習慣、嗜好に合わせて、食事形態や食事量を変更しながら提供している。飲み込みにくい方に対しては水分を多く摂取して頂ける様に白湯等を一緒にお出ししている。食事・水分摂取量の観察が必要なご利用者には、チェック表を使用したり申し送りや記録し職員間で把握に努めている。		
42	(16)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	年2回エリアの歯科衛生士による口腔内の状態を確認して頂き、ブラッシングのアドバイスや必要時には歯科へ受診をするなど行っている。毎食後の口腔ケアの声がけを行い実施して頂いている。また、義歯の洗浄剤を使用したり、コップ・ブラシの消毒洗浄を毎週2回曜日を決めて行っている。口腔内の状態に留意し清潔保持に努めている。	食事やおやつの後には、歯磨き・義歯洗浄・うがいをして清潔を保っている。歯科衛生士が年2回利用者の歯の状態をチェックして、治療が必要な場合は歯科医師で口腔ケアを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(17)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄板を使用し、お一人おひとりの回数や便性、排泄パターンを観察している。また、入浴前にトイレ誘導を行ったり、定時誘導を行い、声かけのタイミングに配慮しながら自立支援に努めている。常におむつを使用している便意やマイナスの場合にトイレに座って頂き、排泄をして頂いている。	利用者それぞれの排泄パターンに合わせ、トイレ誘導を行って自立排泄を目指している。誘導時や失禁時には小声でさりげない言葉掛けを行い、羞恥心にも配慮して安心して繋っている。退院されて帰ってきた方の定時誘導を行った結果、オムツからリハビリパンツに変わり自立排泄が出来るようになった方もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を毎日確認している。リハビリ体操や体を使ったレク活動も行っている。食事にも繊維質の多い野菜を取り入れたり、牛乳やヨーグルトなどの乳製品も取り入れている。また、お茶会時にも水分を多く摂って頂けるように声かけや好む飲み物を提供したり、オリゴ糖などを使用し、便秘予防に努めている。		
45		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴前に事前に声かけを行っている。ご本人様の体調に合わせて午前中に行ったり、気が進まない際は時間や日にちをずらしたりと変更している。入浴時間も注意し、常に情報共有を行っている。衣類の準備、浴室への行き帰りや入浴中に会話をしたり楽しみながら実施できるように工夫して支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寒がりや暑がりなご利用者様の室温、習慣としての室内灯の調光、乾燥肌や痒みのあるご利用者様の湿度、お一人おひとりに合った居室環境で快適に休んで頂けるように配慮している。また、ご家族様にご協力頂き、寝具や家具、飾り物や趣味の物など、ご本人様が慣れ親しんだものに囲まれ安心して頂けるように持参して頂いている。		
47	(18)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員2名で処方箋の確認をしながら薬分けを行っている。1週間分の薬を並べ、一覧表と照らし合わせ、お一人おひとりの名前と個数を確認しながら毎回用意している。また、内服時はご本人様の前で「名前・いつ内服するものか」を声に出し再確認してから内服している。薬の変更時は修正した一覧表の脇に変更した薬がわかるように処方箋を掲示し、いつから開始するか、注意点、副作用などもわかるようにしている。体調の変化なども留意し、記録に残し、次回の受診に主治医へ報告しやすいように対応している。	事務所内の個別のクリアケースに1週間分の薬を入れて管理している。利用者それぞれの服用時間に合わせて、職員が名前と時間などを二重チェックしてから投与し飲み込みまで確認をしている。薬の変更があった場合は、医療連携看護師から処方箋の説明を受け誤薬防止を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの得意分野や特性を理解し、家事仕事で得意なご利用者には下準備や盛り付け、食器拭き、洗濯物干し・たたみ、掃除や雑巾縫いなど、手先が器用なご利用者様には手工芸や塗り絵を季節に合ったものを他のご利用者と一緒に進めるようにしている。ご利用者同士が褒め合いながら行われており、楽しみながら行われている。集中して長時間にならないように配慮し、終了後は必ず謝意を伝えている。		
49		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスが5類になり、法人の規制範囲の中で活動を行った。桜・つつじ・あやめ鑑賞、市内周遊、紅葉ドライブ等のバスハイクを行った。また、天気の良い日は個別にホーム周辺の散策を行う等、制限がある中でも楽しんで頂ける工夫をしながらおこなっている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望で自ら現金を管理しているご利用者はご家族に金額の確認をし職員間で把握している。利用者間で現金授受などトラブルのないように、ご家族にも都度報告しながら注意している。現在は新型コロナウイルスの拡大防止の為、買い物は行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様と話がしたいとのご希望があった際はホームより電話をさせて頂きご家族様にご協力頂いている。携帯電話やiPadを持参されているご利用者様もおり、ご家族のご協力を得ながら使用方法や充電方法に留意し、大切なひとときを持てるようにしている。また、オンライン面会を実施しており、遠方のご家族、ご親戚、ご友人とのつながりが途切れないように対応している。本人宛に届いた郵便物はお渡しし、一緒に確認の同意を得てから、一緒に見せて頂き、嬉しい思いを共有させて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様と職員と一緒に作成した季節ごとの装飾を廊下やフロアに展示し楽しんで頂いている。また、フロアから庭に季節の植物や野菜を植え、成長や花を生けたりと楽しんで頂いている。室内空間は毎日定時に室温と湿度を確認記録し管理している。冬季間はフロアと各居室に加湿器を設置し湿度管理を行っている。西日が差すフロアのため、夏場はレースカーテン、ブラインドや遮光カーテンを活用しこまめに調整している。ホーム内が乱雑にならないように整理整頓に気をつけ、定時清掃を行い、清潔保持を心がけている。	全館に冷暖房のエアコンや加湿器を設置し、温湿度の管理や窓を開けて換気を行うなど感染症にも配慮しながら快適さを保っている。利用者が作った物をリビングや廊下に飾り、季節が感じられて皆で楽しんでいる。リビングでは相性に配慮しながら席替えを行って、居心地良く過ごせるようにしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居心地良く過ごして頂けるように、食席の配置、ご利用者様同士の関係性を常に留意している。フロアではお一人おひとりが自由に好きな事を楽しめる時間がとれるように、雑誌や本を準備し自ら選べるようにしている。また、塗り絵や手工芸なども準備し思い思いの時間を過ごせるように、さりげなく見守りながら場の工夫をしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にはベッドとクローゼット、床頭台を備え付けている。枕や毛布等の寝具、椅子やボックス等の使い慣れた家具等、馴染みの物を持参して頂き、少しでも安心して過ごして頂ける様に配慮している。また、テレビ、CDラジカセを持参され、好きな番組を観たり曲を聴いたりする時間や空間づくりを行っているながら、お一人おひとりに合った対応に工夫している。	利用者は馴染みの物を持ち込み、好みに合わせた配置や飾り付けで安心して過ごせる居室にしている。歩行に不安のある方には、ベッド脇にフロアマット式や赤外線式のセンサーを設置して転倒防止を図り、早い察知と駆けつけで安全確保に努めている。拭き掃除など出来る方には、手伝ってもらい清潔を保っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室入口には名前を明示し、本人がわかりやすいようにしている。また、明示しても迷ってしまうご利用者には矢印をつけた案内表示を行っている。自動で点灯・消灯、流れるトイレには、トイレ内の扉に説明文を掲示し、混乱なくスムーズに排泄が行えるようにしている。洗面所にある個別の洗面かごは、ご本人様のADLに合った配置にし必要な物を入れて自由に使用できるようにしている。ホーム内の動線に障害物のないように留意しながら、自由に過ごして頂けるように対応している。			